

人権コラム(第26回)パリオリンピックから考えよう

人権コラム第26回目を担当する人権・地域教育課です。



7月26日からパリで開催されているオリンピックには、207の国と地域から約10,500人の選手が参加しています。参加選手は男女がおおよそ5,250人ずつで、男女同数になるのは初めてのことです。ちなみに近代オリンピックの第1回は1896年にアテネで開催されました。オリンピック創始者のクーベルタン男爵が「女性がスポーツをしている姿は優雅でも面白くもない。女性の主たる役割は勝者に冠を授けることだ。」との考えを持っていたこともあり、女子選手の参加はゼロでした。1900年の第2回パリ大会からテニスとゴルフが女子種目に認められ22人の女子選手が参加したことが第1歩でした。2024年のパリオリンピックはジェンダー平等の観点から非常に大きなことを成し遂げました。



オリンピックのメダル獲得数についても少し考えてみましょう。日本は金メダル20個・銀メダル12個・銅メダル13個・合計45個のメダルを獲得しました。金メダルの数では世界第3位、メダル総数では6位でした。日本にとっての素晴らしい結果は選手の日々の努力の成果で、選手の努力や選手を支えた方などの様々なエピソードが結果と共に報道され、観ている私たちにも夢や喜びや感動を与えてくれました。

パリオリンピックに参加した207の国と地域で、金メダルを獲得したのは63の国と地域と難民選手団でした。つまり144の国と地域は金メダルを獲得することはできませんでした。金メダルはアメリカと中国が共に40個・日本が20個・オーストラリアが18個・フランスが16個・オランダが15個・イギリスが14個獲得しており、この上位7カ国で金メダルの半数を占める結果になりました。また、半数を超える国と地域はメダルを獲得することができませんでした。一部の国の選手がメダルを独占した結果を見ると、メダルを獲得できなかった半数以上の国と地域の選手の努力が足りなかったわけではなく、練習環境などに差がある考えることができます。カリブ海に浮かぶ島国セントルシアの選手として初めて金メダルを獲得した陸上女子100mのジュリアン・アルフレッド選手は「この金メダルが、セントルシアに新しいスタジアムが造られ、スポーツが発展することにつながればうれしい。」と述べておられます。



200以上の国や地域があるので、文化や習慣にちがいはあるのは当然です。しかし、スポーツを『がんばろう』、『楽しみたい』と思う人々の環境に差があるのであれば改善しないといけません。オリンピックはジェンダー平等の観点で大きな格差がありましたが、格差是正に

向けてしっかりと歩みを進めることができました。今、国別のメダル獲得数に格差があり、新たな課題が見えてきました。格差は是正しないといけませんが、その力は私たち一人ひとりが関心を持つことだと考えます。次回のオリンピックは4年後ですが、その時に国別のメダル獲得数に関心を持ってくださる方がいたら、格差是正の第1歩になっているかもしれませんね。